



Title	部 高齢者と障害者(児)の住みやすい社会をめざして 序
Author(s)	
Citation	人にやさしい“まちづくり” 長崎から (長崎大学公開講座叢書 5), p.173; 1993
Issue Date	1993-03
URL	http://hdl.handle.net/10069/33578
Right	

This document is downloaded at: 2019-09-23T01:06:36Z

Ⅱ部 高齢者と障害者（児）の住 みやすい社会をめざして

序

長崎大学公開講座に医療技術短期大学部がはじめて参画したのが、昭和62年からである。その間、講座数は増加し平成4年度では、長崎大学公開講座13講座中6講座を医療技術短期大学部が占めるに至った。

その内容の多くはリハビリテーション関連講座であるが、保育、看護、心理等、主としてコメディカル分野のさまざまな講座が開講されてきた。その間、臨教審の答申には短期大学部の使命の一つに生涯学習センターとしての機能づけが提唱され、短期大学部の公開講座の使命が一段と熱をおびてきた感がある。

そのような折りに、長崎大学公開講座叢書に医療技術短期大学部の公開講座の要旨を出版する機会を得たことはまことに喜ばしいことと思う。ここでは、教官の転出等で全ての講座の記載することはできなかったけれども、リハビリテーション講座を中心に高齢者や障害者（児）等のいわゆる社会的弱者とよばれる人たちの住やすい社会づくりの提案を各講座の関係諸先生に執筆をお願いした。

1章は、高齢化社会に向けて家庭のきずなを大切にされた地域リハビリテーションの視点からリハビリテーション資源の社会化を中心に、2章では現在の医療形態が施設内から在宅医療へと確実に広がりつつある現状を踏まえ、これからの在宅（地域）医療のあり方について、3章では在宅医療のモデルケースとなった在宅酸素療法より慢性呼吸不全患者の社会参加の方法について、4章では高齢者や高齢障害者をめぐる医療・保健・福祉の問題を上げ、高齢者の住みやすい社会づくりについて、5章では障害者（児）の住みやすい社会を支えるために有効な福祉機器の活用法について、6章ではコミュニケーション障害児の住みやすい社会づくりのために統合教育の必要性について、7章では、どの子ども地域で育つために、子どもを育てる社会資源システムの現状と課題について、8章では身体障害児の立場から統合教育について、9章では寝たきりの原因の一つになっている腰痛を取り上げ、その予防法をそれぞれ論じて頂いた。

本書がよりよい社会づくりの提案になればさいわいである。